

LPガスCP情報(2014年2月積み)

1. 2月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン970^{ドル} (前月比 - 40^{ドル})

ブタン 970^{ドル} (前月比 - 50^{ドル})

① LPガススポット市況

LPガス市場をみると、月初めは需給に逼迫感がなく先物市場は先安感が強かったことから市況は軟化、最終週は米国の寒波によるプロパン需給の引き締めりと市況急騰で中東、NWE市場も急反騰した。CP先物指標はバックワーデーション(期先安)、第3週には一時900^{ドル}を割り込んだが、トレーダー勢の買い支えと第4週には米国からの供給タイト感から急反騰、極東CFR市況も1000^{ドル}を割っていたが、第4週末でプロパン1,016^{ドル}、ブタン1,010^{ドル}に上げた。プロパン・ブタン格差はブタン需要の減退と暖房需要のプロパン市況の上昇で格差が解消された。フレートは60^{ドル}台で推移していたが、中東スポット需要が弱く軟化した。

原油(A・L)熱量等価換算では前月に比べプロパン1ポイント、ブタン2ポイントの下落、前年同月比ではプロパン、ブタンともに10ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	60.9	60.3	61.8	55.6	59.7
CP先物指標：P	902	926	912	962	925.5
CP先物指標：B	912	911	927	957	926.8

② 原油市況等

原油市況をみると、1月WTIは95^{ドル}、ドバイ104^{ドル}台でスタート。月前半は米国石油製品在庫が増加、ファンダメンタル図の弱さとイラン核開発抑制プログラムの第1段階履行で市況は軟化した。米国製油所稼働率高水準から原油在庫は7週連続減少、米国の記録的寒波によりヒートンギングオイルを含む留出油在庫が急減し市況は反騰した。米国の原油生産は1988年以来の高水準で在庫も増加し、第4週末以降は、新興国の市場不安により株価が急落しリスク回避の動きもあったが、寒波の影響で暖房用油種、天然ガス、プロパンが急騰、WTIは97^{ドル}台で推移。米国経済指標の動向と量的緩和縮小継続の行方に一喜一憂する状況も続いている。

○1月積みアラビアンライト(1月1~30日)は107.7^{ドル}(前月比-3.56^{ドル})

熱量等価AL100% プロパン883.60^{ドル/トン} ブタン871.48^{ドル/トン}

AL比 プロパン109.78% ブタン111.30%

2. 2014年2~3月LPガス仕切(CPコスト変動分)への影響

適用期間	TTS	P:円建CP	B:円建CP	P前月比	B前月比
16~15日①	104.69	101,549	101,549	-4,800	-5,800
26~25日②	105.51	104,500	105,000	-5,100	-11,700
1~30日③	104.98	104,600	105,300	-7,200	-15,500
1~30日④	104.98	103,900	104,500	-6,300	-12,800

*TTS平均は①が1月16日~1月30日まで、②は12月26日~1月25日

③は1月1~30日、④は1月1~30日、①は3月仕切への影響、②~④は2月仕切適用。③は前月CP3分の2、当月CP3分の1の案分。②、④は前月・当月CP50%案分。詳細は(LPガス価格推移表等を参照)

なお、各社の仕切は、フレート分、バンカーサーチャージ等の改定もなされるため、CPコスト変動分と実際の仕切と異なるケースがあります。更に、為替レートの急変動等もあり、改定幅についてはご注意ください。